

令和7年度第4回長崎市社会教育委員会議の協議結果について

- 1 日 時 令和8年2月17日（火）18時30分から19時30分まで
- 2 場 所 長崎市役所13階 中会議室
- 3 出席者 委 員 9人中7人出席
事務局 教育総務部長、生涯学習企画課長、同課地域学習係長、
同課職員1人

4 議事内容

- (1) 答申の内容について

5 主な意見

- (1) 答申の内容について

ア 答申の内容については、よく整理されており、特段言うことはないが、記載されている事例はあくまで一部であるので、各地区の取組をカテゴリー分類し、不足している取組の種類を分析していく必要があると思う。また、各地区の取組を参考にするなど、各地区で高め合っていければと思う。

イ 4ページの各地域コミュニティ連絡協議会の取組が掲載されているQRコードが掲載されていることで各地域の活動が可視化され、情報共有が進むと思う。地域コミュニティだけでなく、自治会情報もリンク化し、掲載したらもっといいと思う。

ウ 地域コミュニティや自治会などの取組がまとめられているプラットフォームを作成できればいいと思う。また、事例だけでなく、ノウハウの伝授や地域をつなげる人材の募集、今から動ける人材の派遣などのネットワーク構築ができればいい。

エ 6ページの「コミュニティナース」という言葉は、まだ浸透していないため、市民からしたらわかりにくい。ほかの言葉・表現に変

えるか、※で注釈を記載するなど工夫してほしい。

オ 6 ページにある「ハイブリッド」という言葉は、少し手間がかかるようなニュアンスになっているが、電子媒体と紙媒体の両方で情報発信する必要がある過渡期でもあるので、「ハイブリッド」という言葉がポジティブになるのは今後の課題である。

カ 紙媒体だけでなく、直接行かなくても体験しなくても情報を得ることができるというのはすごくいい。

キ 高齢者が多い地区では電子媒体が苦手な人は多いので、紙と電子の併用は必要であり、まだ続くと思う。

ク 文字だけでなく、図式化しているのがいい。若者にも見てもらうためのいい構成であると思う。

ケ こどもだけでなく、大学生という言葉を入れていただいた。若者の力が生きる場所をもっとつくっていききたい。